

みやぎ地域・市民電力連絡会が11月19日「出力抑制」の学習会を開催

今九州が出力抑制強いが、将来は東北に移動する

11月19日(日)仙台市市民活動サポートセンターでみやぎ地域・市民電力連絡会の2023年度例会が開催されました。今年「再エネの出力抑制」をテーマに、ISEP(NPO 法人環境エネルギー政策研究所)の理事である松原弘直氏を講師に招きました。



宮城県では2021年より低圧(200K以下)の太陽光発電に対する出力抑制が始まり、今年は昨年より倍以上の抑制となっています。来年5月には女川原発2号機が再稼働することから、さらに出力抑制が強まると予想され、出力抑制の現状と今後の課題を参加者で協議しました。

参加者は現地集合31名、オンライン14名の、計45名でした。

電力会社を越えた広域連携で余剰電力を使う対応が必要

講師の松原弘直氏の講演内容の概略を紹介します。

「2018年に九州で出力抑制が始まった。ご存知のように原発再稼働に合わせた動きである。そして2022年より全国に出力抑制が広まった。FIT時代の旧ルールで30日間の出力制御がルール化されているので、抑制そのものを止めることはできない。しかし地球温暖化対策を考えた時、再エネの役割は重大で、出力抑制を最小限に抑える努力が必要。まず電力会社間の系統運用の容量を拡大する必要がある。同時に1電力会社で対応するのではなく、東日本・西日本と、地域を広域化した対策が必要。たとえば、余剰電力を吸収する揚水発電は東北管内には71万kw1基しかないが、東京電力管内には1,095万kwもある。しかもほとんどが福島に立地している。だから東北で余剰電力が発生した時、東京電力の揚水発電を稼働させるという広域連携を具体化することが重要。」

講演後、会場からの質問や意見が相次ぎ、特に「電力会社が出力抑制の実態を発表しないのが問題。360時間以上抑制していないかどうかの検証が必要だ。」との発言が印象的でした。経産省や東北電力にそのことを求めていくことが、今後の課題となるでしょう。

槌音高く、泉新病院建設進む

仙台市泉区長命ヶ丘2丁目にある泉病院では、毎日槌音高く、新病院建設が進んでいます。これまでの駐車場の場所に新病院を建設中で、来年10



月から利用できる予定になっています。屋上が完成した来年9月には、32kwの太陽光パネルが敷設される予定です。太陽光発電の工事費は1,200万円の予定です。

きらきら発電市民共同
発電所ニュース

2023年12月

第108号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/
hirohata3888@outlook.jp

井土プチマルシェで気候危機屋台を出店



10月28日(土)の午前、若林区井土地区内の広場で開催された「第3回井土プチマルシェ」で、きらきら発電は「気候危機屋台」と銘打って、再エネ展示と地球温暖化クイズを実施しました。きらきからの参加は佐藤功さん・伊藤卓雄さん・阿部文明さん・寺島知子さん・高山摩耶子さん・山岸和子さん・広幡の7名でした。

子供たちは子熊のぬいぐるみを動かす「自転車発電機」に挑戦して大喜び。ラジカセから一緒に流

れてくる「森の熊さん」のメロディーを聞いて、大人も「最近聞かなくなってなつかしいわね」とか「今年は怖い話ばかりだから熊さんは遠慮したら」といった反応。「地球温暖化クイズ」のほうは大人9人と小学生1人が参加。最初の質問「産業革命以後100年で世界の気温は何度上昇したでしょうか？」の質問に悩む人が多く、正解者は2名のみ。ちなみに正解は1度C。

お昼前には恒例のビンゴが行われ、山岸和子さんが新米をゲット。多くの方はため息をもらいました。

お昼はおやじカレーが無料でふるまわれ、とってもおいしいカレーでした。

若林区井土地区は東日本大震災の被害で世帯数が激減。未利用宅地の深刻な課題をかかえています。その宅地をお借りして、きらきら発電は1号機の井土浜発電所を2015年に開設しました。固定価格がまだ高い時代だったので、8号機あるきらきら発電所の中で稼ぎ頭となっています。そして井土町内会にも入会させていただき、地元のまちづくり企画にも毎年参加させていただいています。

きらきら発電、3-7月期の出力抑制で8%減収

11月19日のみやぎ地域・市民電力の年会のテーマが「出力抑制」だったので、今年3月から7月まで出力抑制された4基の発電所の発電量・収入金を過去の平均と比較してみました。結果、仙台市若林区井土浜1号機は7.9%の減、塩釜あゆみ3号機は12.67%の減、亘理4号機は4.63%の減、多賀城5号機は12.66%の減で、合計では11,188kwh、8.57%、金額では28万5千円の減となっていました。この減収を年収と比較すると、3%台の減収となり、今年の決算が厳しくなります。

東北電力管内では、200KW未満の太陽光発電所の出力抑制は昨年2021年より始められ、昨年は4-5月期の

土曜・日曜・休日に限った抑制でした。しかし今年は様変わりして、平日の抑制も増え、抑制量が昨年の倍以上に達しています。出力抑制が増えた理由は電力単価の引き上げによる電力消費量の減と火力発電運転の増加(河北新報8月2日報道)が原因です。自然エネルギーを抑制し、火力発電の運転を増やすなど、地球温暖化・気候危機対策に背を向けた態度と言わざるを得ません。

きらきら発電の2023年度出力制御の実態

		過去の平均	2023年	差額	%
井土浜1号機	発電量kwh	33,938	31,255	-2,683	7.90%
	収入・円	1,172,897	1,100,174	-72,723	6.20%
あゆみ3号機	発電量kwh	10,409	9,090	-1,319	12.67%
	収入・円	274,798	239,976	-34,822	12.67%
亘理4号機	発電量kwh	46,387	¥44,240	-2,147	4.63%
	収入・円	1,071,540	1,021,944	-49,596	4.63%
多賀城5号機	発電量kwh	39,792	34,753	-5,039	12.66%
	収入・円	1,160,335	1,031,835	-128,500	11.07%
合計	発電量kwh	130,526	119,338	-11,188	8.57%
	収入・円	3,679,570	3,393,929	-285,641	7.76%